

授業公開後の研究会について、ICTを効果的に活用しながら協議を深めている事例を御紹介します。



米子市立淀江中学校の実践より

授業公開前

「授業参観の視点」「授業研究会の内容」「グループ分け」等のアナウンスをしておきます。また、Classroomのストリームに、Canvaのリンクをアップロードし、**事後協議のグループ(A~E)ごとのシートを用意**しておきます。授業参観の視点に沿って、良かった点や改善点などを**授業参観中に書き込んでも、参観後の事後研究会が始まるまでに書き込んで良いこと**しておきます。



- 【事後研究会の流れ】
- ①開会あいさつ・講師紹介(2分)
 - ②授業者の自評・意図説明(5分)
 - ★③グループごとの意見交換(25分)
 - ★④各グループからの報告(10分)
 - ⑤講義・指導助言(45分)
 - ⑥閉会あいさつ(3分)
- ★ 振り返り

校内授業研究会実施のためのポイント(P.7~)御参照ください。



西部教育局HPより



◎ 授業参観の視点

「淀江中学校 授業研究会要項より」

※タブレットを使用して研究会を行います。

「R6 淀江中学校教職員」のストリームにCanvaのリンクをアップロードするので、各グループのシートに付箋を貼付してください。授業参観中に貼付が困難な場合は紙にメモを取り、研究会前に貼付してください。淀江中学校以外に勤務されている先生方には事前にリンクを送付しますので、そこからアクセスしてください。

青の付箋:良かった点、自分の授業に生かすことができる点

赤の付箋:改善点、まだ工夫できる点 を記入してください。

- 教えどころ(モデリング) → 確かな導き・基礎知識、技術の習得
Ex)文法、聞き方、話し方、学習規律 etc
☆指導者が「指示・提示」する内容、方法は適切であったか
- 考えさせどころ(コーチング) → 場の設定・自学支援
Ex) 課題の自己設定、問題解決学習、学び合う集団、生徒のアイデアを活かした学習 etc
☆生徒が自律的に学ぶ「場の設定」及び「自学支援」は適切であったか
→「学び合う場面」を適切に演出できていた
→生徒同士が関わり合う場面は適切であったか。
→「学び」から離れた生徒に対する指導者の対応が適切であったか。
- 価値づけどころ(フィードバック) → ほめる・勇気づける・さらなる学習への意欲向上につながる
☆本時の学習に対する「価値づけ」は適切であったか
→振り返りが適切に行われていた
→○○さんに対して「△△」のような声かけが必要であった
→××のような場を設定し、生徒が本時の学習について振り返る時間を確保するべきであった

【注意】 参観者は、生徒に話しかけない、グループ学習のとき以外は机間を歩き回らないで参観してください。

★③意見交換

グループごとの意見交換では、書き込まれた付箋をもとに協議を進めます。**他のグループの様子も適宜参照したり、協議の中で新たな意見が出たら付箋を加えたりしていきます。**端末上だけでなく、出た意見を基に指導案に書き込みをするなど、先生方一人一人が**自分に合った方法**で学びを深めています。



★④報告

各グループからの報告では、**大型モニターに該当箇所を拡大して写したり、それぞれが手元の端末で確認したり**しながら聞けるようにしています。



★振り返り

講義・指導助言を受けた後、各自が**GoogleFormsで振り返りを回答**します。回答された内容は、後日、研究主任から共有されます。



◎研究協議をした内容がClassroom上に残ること、いつでも誰でもどの場所にも見返すことができます。

◎端末上で意見を出し合うことで、他のグループで出た意見も参照しながら協議を進めることができます。

◎校内研究会等の校務で教員が一緒にICTを活用することで、使い方に慣れ親しむことができます。教員が使い方に慣れることで、授業での活用にもつなげていくことができます。



Canva(キャンバ)教育版



利用開始時は、Googleの9点リーダーにあるCanvaアイコンか、左のQRコードでお入りください



Canvaの使い方については、「授業支援サイト」を御参照ください。

Check

「教育DX」



※ Googleアカウント (@g.toriko.ed.jp) でログインしてください。